

リナグリプチンOD錠5mg「JG」の安定性試験(無包装)

1. 試験目的

リナグリプチンOD錠5mg「JG」を無包装状態で下記条件にて保存し、安定性を確認した。

2. 保存条件

- ・温度に対する安定性試験: 40±2℃ 3ヵ月 [遮光・気密容器]
- ・湿度に対する安定性試験: 25±2℃/75±5%RH 6ヵ月 [遮光・開放]
- ・光に対する安定性試験: 120万lx・hr(約4000lx[D65]・12.5日) 25℃/湿度なりゆき [ガラスシャーレ+ラップ]

3. 試験項目

性状、純度試験(類縁物質)、崩壊性、溶出性、含量、硬度<参考値>

4. 評価方法

「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について(答申)」(平成11年8月20日(社)日本病院薬剤師会学術第5小委員会)の評価分類基準に準じる。<安定性の評価基準の項参照>

5. 試験結果

	試験開始時	温度	湿度		光
		3ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	120万lx・hr
性状	淡赤色のフィルムコーティング錠(口腔内崩壊錠)	変化なし	変化なし	変化なし	変化なし
純度試験	適合	変化なし	変化なし	変化なし	変化なし
崩壊性	適合	変化なし	変化なし	変化なし	変化なし
溶出性	適合	変化なし	変化なし	変化なし	変化なし
含量(%)	102.6 [100]	103.25 [100.6]	103.60 [101.0]	103.96 [101.3]	102.44 [99.8]
硬度(N)	53	57	32	33	56
評価	—	◎	○	○	◎

硬度: 1N≒0.1kgf

6. 結論

湿度条件において、硬度の低下傾向(規格内)が認められた。

安定性の評価基準

安定性の評価は、「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について(答申)」に記載された試験項目毎の評価基準に従って行った。

【性状】

分類	評価基準
変化なし	外観上の変化を、ほとんど認めない場合
変化あり(規格内)	わずかな色調変化(退色等)等を認めるが、品質上、問題とならない程度の変化であり、規格を満たしている場合
変化あり(規格外)	形状変化や著しい変化を認め、規格を逸脱している場合

【純度試験・崩壊性・溶出性】

分類	評価基準
変化なし	規格値内の場合
変化あり(規格外)	規格値外の場合

【含量】

分類	評価基準
変化なし	含量低下が3%未満の場合
変化あり(規格内)	含量低下が3%以上で、規格値内の場合
変化あり(規格外)	規格値外の場合

【硬度】

分類	評価基準
変化なし	硬度変化が30%未満の場合
変化あり(規格内)	硬度変化が30%以上で、硬度が2kgf(19.6N)以上の場合
変化あり(規格外)	硬度変化が30%以上で、硬度が2kgf(19.6N)未満の場合

安定性の評価分類

安定性の評価分類は、原則として無包装状態での安定性試験における、保存条件、試験項目および試験結果から、下記の評価分類に従って分類した。

試験結果	評価
測定された全ての試験項目で変化を認めない	◎
いずれかの試験項目で、「規格内」の変化を認める	○
いずれかの試験項目で、「規格外」の変化を認める	△

※平成11年8月20日付「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について(答申)」(日本病院薬剤師会)に準ずる。

2026年8月

001